

3月に向けて

代表取締役 三田雅憲

2月の厳冬から3月のひな祭りが近づき、一日一日と春の訪れを感じる今日この頃です。今年は咳が長引く風邪が流行し、苦しんだ社員もおります。朝礼でもお話いたしました。今年も「健康優良法人2025」の認定(内定)を無事に受ける事が出来ました。サインージ広告においても、お伝えしてもらいますが、「社員の健康を考えた経営」を心掛ける為にも実施していきたく考えております。健康委員の諸君もAEDの操作講習や心臓マッサージの実演などの研修実施をお願いしており、今後も健康に関する取組みをどうぞよろしくお願い致します。

今月は蚊取り線香などで知られている、アース製薬社長の川端さんのお話を紹介いたします。

「2014年に初めてオーナー家以外の社長として就任し12年目、海外事業の拡大や殺虫剤から虫ケア用品のイメージ変更と様々な挑戦を重ね、成果を上げている。根底にあるのは「強く思うことは実現する」という信念である。「思うだけで出来るほど甘くないと言われてしまうが、それは当然で、強く思うからこそ行動に移す。そして理解をもらったうえで周囲を巻き込む」のが川端さんの流儀である。信念をもってトライすれば「たとえ失敗しても諦めがつく」という姿勢が挑戦を後押ししてきた。経営トップとしても社員が強く思ったことはできるだけ実現させたいと考える。「そうした声が出てこないなら、意見が言いやすい会社へ変えていく」と社員には発信をして、そうした企業風土づくりに力を尽くしている。アース製薬は今年で創業100年目を迎える。企業寿命は30年未満ともいわれる現在のビジネス社会の中で「社員自身が社会に求められているものは何かを考えるように変わってきた」と話す。100年後アース製薬が何をしているか分からないが「社会に求められるものを提供し続けられる会社でありたい。もしかズレが生じたら、それを見直せる会社であってほしい。」多くの老舗企業が社風を変える事は難しいとされるが、それをやり切るのが川端社長の考えだ。」

当社も今年創業55年で、アース製薬さんから見たら半分の社歴しかありませんが、他社からみたら立派な老舗と言われても過言ではありません。しかし「のれんは革新」という言葉がありますように、のれん(十分な歴史を持った会社)があるからこそ、今の時代に合致した考えや製品・サービスが必要となってきます。そのためにも日頃の社会の流れを理解し技術の革新に取り組み、個人個人が問題意識を常に持って生活していくことが大切になってきます。4月には新入社員が入社され、また55周年の記念祝賀会が開催されます、新しい時期に向けて自分たちの目標を強く願い、まい進していけるように一緒に頑張りましょう。